

# 令和5年度 教育事業報告

## 1 令和5年度の重点事業計画

- (1) 教育環境整備事業
- (2) 授業を中心とした教育の質の向上
  - ・ICT等整備活用の推進
  - ・新学習指導要領対応新課程の円滑実施
  - ・「観点別評価」の実施検証及び改善
  - ・教職員研修の充実
- (3) 生徒指導の充実化と校内教育環境の安定化
  - ・生徒指導件数減・いじめ案件の撲滅・授業環境の改善
  - ・教育相談分野の組織的強化
- (4) 募集活動の充実と拡大
  - ・広報活動の拡大と充実化
  - ・「未来の教室」を核にした教育内容の改革と充実のPR
- (5) 進学指導の充実
  - ・文理探究科の進学指導の再構築
  - ・人事を含めた職員の教科指導力の強化
- (6) 将来ビジョンに基づく諸施策の打ち出しと学校経営と教育力の再構築
  - ・「未来の教室」①②③の円滑実施
  - ・「未来の教室」②の本格的始動
  - ・「未来の教室」④ スポーツ科学コースの指導改善
  - ・「通信制の課程」設置準備
- (7) 諸規定の見直しと改訂、成績処理等の管理処理の改善
  - ・生徒指導規定、教務規定等の内容、表記についての見直し
  - ・教務、進路等に係る重大なミスが連続してきた状況改善策実施
- (8) その他
  - ・教職員の意識改善
  - ・「働き方改革」への研究と対応策検討
  - ・部活動の在り方検討
  - ・学生寮の在り方検討
  - ・スクールバス事業の在り方検討
  - ・その他本校の在り方等検討

## 2 重点事業計画実現へ向けた取り組み

- (1) 教育環境整備事業
- (2) 授業を中心とした教育の質の向上

#### ア ICT 整備活用計画

- ・ iPad の購入と授業及び家庭学習に有効活用を推進中
- ・ 授業支援アプリケーション (MetaMoji Classroom) の導入し、iPad 上で、解答状況や進捗のモニタリングが可能になり、個々の学習理解度等の即時把握できるようになった。
- ・ デジタル版指導用教材の利用し、教材を単焦点プロジェクタにてホワイトボードに投影可能になった。
- ・ 校務支援システム「スクノート」の導入により、学籍管理・入試管理・成績管理・連絡機能・アンケート回収機能等に活用が可能になった。
- ・ IT 教育事業の拡大に向けた必要機器の導入を検討している。一層の情報活用能力の拡大と I 類受け入れ環境の整備に向けた調整と検討を図る。

#### イ 新学習指導要領対応の新教育課程の円滑実施

- ・ R 4 年度 1 年生から学年進行で実施。R 6 からの完全全学年実施。下記ポイントに重点を置いた本校の編成についての見直しや再改訂を視野に研究している。
  - ① 新科目と配当単位数
  - ② 週 28 単位時間の有効活用
  - ③ 希望や進路に応じて柔軟に選択な選択を可能にする配置
  - ④ 文理探究科を中心とした大学入試対応

- ・ 大学入試の科目や重点、各大学の動向を見据えつつ柔軟に改訂することもありうる。特に「情報 I」の共通テスト導入への対応重要
  - ・ 文部科学省「DX ハイスクール」指定校認定を受けた対応の必要性あり
- #### ウ 「観点別評価」の検証と改善

学習指導要領に定める目標に準拠した評価、資質・能力の三つの柱に対応した三観点での評価の再検証と適正実施。「成績表」「調査書」「指導要録」への明記と説明責任に慎重な対応が必要であり、教務課を中心に、各教科の評価法及び評価結果の再検証を実施している。

#### エ 教職員研修の充実

(生徒理解力、教科指導力、ICT 活用力、使命感と倫理感等を軸に)

- ・ 総合教育センター主催研修の活用…延べ 25 人：33 研修参加
- ・ 私学協会主催研修の活用…延べ 9 人：16 研修参加
- ・ 校内研修会の充実 (教務内規に定める研究授業等) … 9 人が 9 回実施

### (3) 生徒指導の充実化と校内教育環境の安定化

#### ア 生徒指導件数減・いじめ案件の撲滅・授業環境の改善

- ・ 個別面接指導の拡充を図り、年間複数回数の個別面談を通じて生徒の状況理解に努め、問題行動、いじめなどの早期発見とともに、卒業後の将来ビジョンを具体的、明確に持たせ、その実現のための高校生活

における目標を具体的に意識させることにより、健全で落ち着いた学校生活となるようサポートをしている。その他、下記を念頭に指導の充実を模索している。

- ① 進路指導と連携した生活指導
- ② 保護者を含めたルール、法令等の事前周知の徹底
- ③ 女子生徒への足並みをそろえた指導の徹底
- ④ ボランティア活動などの社会貢献活動への積極的参加
- ⑤ 部活動の充実化と健全な運営

\* R 5 年度年度生徒指導の状況

- ・特別指導 39 人
- ・説諭等 9 人

イ 教育相談分野の組織的強化

- ・教育相談 SV、養護教諭助手の新配置を実施。スクールカウンセラー等の活用を含めて教育相談事業等の充実化を図った。友人関係や学校生活上の精神的課題や悩みを持つ生徒、指導上の悩みを抱える教職員が相談できる環境整備を研究検討する。専門家の雇用が実現し、専門機関や医療機関との関係強化を視野に、組織的対応をサポートする体制の構築を継続して研究している。
- ・個人面接週間の複数化を生徒指導課が中心となり、各時期の面談の要点等を指示。担当者の「面談力」が課題。
- ・夏季職員研修で「多様な背景を持った生徒の理解と対応」をテーマとした専門家の講義を全職員が受講した。R 6 スタートの“合理的配慮の民間への義務付け”への対応も視野に入れた研修会を実施した。

\* R 5 年度教育相談の状況

- ・野本 SV 対応件数 38 件  
これらに対応するため 生徒 30 回 保護者 13 回 教員 37 回の面談
- ・養護教諭対応件数は年間 200 回以上

(4) 募集活動の充実と拡大

ア 広報活動拡大と充実

- ・学校説明会等の充実：R 5 年度の「学校説明会」も焼津文化会館大ホールで実施した。参加者は対前年度で大幅に増大。アンケートも好評だった。R 6 年度も 8 月 10 日(土)、同会場を予定している。アイデアを結集して一層の魅力発信をする。

8 月学校説明会：8 月 19 日(土)焼津市文化会館大ホール

9 月中学校教員説明会：① 9 月 25 日(月)本校

② 9 月 26 日(火)本校

- 10月第1回体験入学会：10月14日(土)本校
- 11月第2回体験入学会：11月18日(土)本校
- 地区別説明会 島田地区：11月2日(木)プラザおおるり
- 地区別説明会 吉田地区：11月24日(金)住吉会館
- 12月個別相談会：12月9日(土)本校
- 同 追加相談会：12月16日(土)本校

#### イ 中学校等訪問等

- ・相談役 - 校長訪問 (年3回)
- ・教頭 - 校長・主任等訪問 (掛川以西～磐周エリア)
- ・渉外 - 主任・進路担当訪問 (志榛・清静エリア年3～4回)
- ・学習塾等(中部圏内 120教室)
- ・掲示物、出版物等に加えて、R4からTVCM実施(静岡第一TV)

- R6入試からの一層の中学卒業人口の激減少期に向けた校内組織の強化、再構築が急務である。人事配置、人材確保等踏まえ、組織的計画的な広報活動体制の再構築が必須。その他さらにスクールバス路線拡充や「校名変更」などが提案されている。

### (5) 進学指導の充実について

#### ア 文理探究科のアカデミックセミナー

R4年度から静清ゼミによる資格取得支援の一層の充実に加えて、文理探究科では、7時限目を週3回ほど利用した「アカデミックセミナー」を実施している。「英語基礎文法の総復習」など1年時1学期は中学校基礎学力の定着など基礎力の徹底指導を行って生徒の苦手意識を払拭して高き志に結び付けたい。2年次以降は他教科を含め教育課程を補完する進学準備に有効活用している。サマーセミナーも実施できた。

#### イ チューター制

R4年入学の1年文理探究科でスタートさせた。担任とは別に3人程度の生徒の進路相談や学習アドバイスをを行う「チューター」を当て、個別面談を充実させ、より身近で一人ひとりに寄り添った指導を実施している。

#### ウ ALTの活用

R4年度から導入した。非常勤外国人講師による指導を通じて、英検やGTECなどの資格試験への挑戦をする生徒を増やすとともに、英語に親しみ積極的にコミュニケーションをする姿勢を育成する。共通テストの得点割合でのリスニングの高まり(リーディング・リスニング=1対1)への早期対応をしている。

#### (エ) 年間指導計画(シラバス)と使用教材の見直し

副教材やデジタル教材等の精選と活用について大学入試を視点に見直

しをかける。習熟度授業を前提に研究する。

(オ)「進路指導ストーリー」の策定と実施

3年間を見通した校外模擬試験や資格試験、個別面談などの予定と意義づけを明確にした指導計画を作成し、生徒、保護者と共有する。

(カ) 進路行事の研究と検討及び導入

大学訪問、保護者説明会、長期休業補習、英検、模擬試験、勉強合宿、土曜講座 等々について必要性和有効性を検討する。

(キ) 教科指導力向上

各教科の人員の適正配置と指導力向上に配慮した人事と各種研修等を通して魅力ある授業の研究と実践を進める。

(6) 将来ビジョンに基づく学習プログラム「未来の教育」の実施による教育力の再構築

文理探究科の進学対応とともに、定員 200 人を抱える工学探究科についてのビジョン明確化と具体的対策の検討は今後の生き残りの要点であり、外部機関との連携を含めた研究と検討を行い、I 類において「IT 教育推進事業」を R 3 に検討開始し、R 4・R 5 は教育実践として実施することができた。文部科学省補助指定校になり一層の充実を図りたい。II 類「キャリアクリエイト」も R 5 にスタートした。

- ア 未来の教室：①進学指導 P ②IT 教育 ③キャリアクリエイトコースの円滑実施
- イ 未来の教室②「IT エキスパートコース」(R 6 募集)も視野にシステムシェアード社との業務連携の強化と授業実践の深化に努めた。“スチューデント S E”などユニークな取り組みも実践できた。年度末に申請手続きとなった文部科学省補助指定事業である「高等学校等デジタル人材育成事業」(DXハイスクール)の認可も決定し今後の工学探究科の柱としての道が開けつつある。
- ウ 未来の教室④「スポーツエキスパートコース」(R 7 募集)の準備とスポーツ科学コースの立て直し:信州大学医学部スタッフとの連携ができた。後半期、体育主任を窓口事業構想を相談しつつ授業実践も3回行った。
- エ 「通信制の課程」設置準備  
静岡県庁私学振興課の指導を受けつつ、他校視察や人事計画を含めた準備を進められた。計画書類の提出、申請書類の提出、訪問審査、審議会を経て、R 6 年度 8 月の「承認」、R 7 年 3 月末の「認可」へ進めていく。

(7) 諸規定の見直しと整理、事務執行の改善

- ア 担当分掌を中心に「生徒指導規定」、「教務規定」等の本校の指導の柱である諸規定に見直しをかけ、適正な表現や修正を行った。

イ 教務課が主導して、教科書選択、成績処理、発信文書（調査書・推薦書等を含む）、実施要項等々の重大なミスを防止し適正化するために全般の改善を図ったが、今年度も何度かの大きなトラブルへの対応を迫られた。

**(8) その他**

ア 教職員の意識改善

イ 「働き方改革」への研究と対応策検討：学校視察 伊勢学園・享栄高校  
部活動の在り方検討

ウ 学生寮の在り方検討：令和6年3部活統合

エ スクールバス事業の在り方検討：静岡便等増便対応

オ その他本校の在り方等検討：渉外課より“校名変更”等の提案

**(9) 連絡事項等**

ア R7年度入学募集について 文理探究科 40 工学探究科 200  
【Ⅰ類 IT60・スポ30】  
【Ⅱ類 110】

イ R5年度末人事について

ウ 静岡学習センター(仮称)について 相川伝馬町ビル 1F 一部